

# 医師不足地域を支える医師



富士宮市立病院  
病院長  
佐藤 洋 医師

## 医師をこころざしたきっかけを教えてください。

佐藤医師 医師には、人々のために役立ち尊敬される仕事として、子供のころから希望してなりました。大学での臨床実習で心房中隔欠損症の手術を見学させて頂き、心疾患に興味を持ちました。性格的には、考えて悩むより行動を優先するタイプであり、救急医療に向いていると思っていましたので、先輩の勧めもあり循環器内科を選びました。現在は、循環器内科のみならず、総合的に「病気を見るより人を診る」ことを大切に、「生涯一内科医」をモットーに謙虚な気持ちで医師を続けて行きたいと思っています。

## 医師として働いてきた中で印象に残っていることを教えてください。

佐藤医師 私が新人の頃は、食生活の欧米化を基として生活習慣病が急増し、急性心筋梗塞をはじめとする動脈硬化性疾患が循環器病の主体でした。当時は、現在のステント治療などに比較して効果に限界のある治療しかできず、狭心症や心筋梗塞の再発が数多く見られました。そのため、動脈硬化の原因である糖、脂質代謝異常を管理することの重要性を痛感し、インスリン抵抗性や酸化LDLコレステロールの研究を行いました。また、米国への留学にて世界中の優れた研究者たちと接することで、日本国内の医療界という狭い世界に閉じこもらず、広く世界に出て吸収、発信する必要性を実感しました。

大学病院や大病院では、専門化が進んでいて、循環器医は心臓の病気だけ診ていけばよい傾向があります。しかし、現在は、超高齢化社会を迎え、患者は、多様な合併症を持っており、そのなれの果てというべき心不全の患者が非常に増加しています。全身の病気に対応できる知識、技量がこれからの医師には求められると思っています。

## 地域の病院として果たす役割について教えてください。

佐藤医師 国や県の進める地域医療構想を踏まえて考えると、地域の病院には、それぞれの地域特有のニーズに応えることが求められると思います。当院は、富士宮地区唯一の総合病院であり、富士宮市と周辺の急性期医療に対応するだけでなく、高齢化が進む地域の包括ケアシステムの一員として、回復

期医療にも応じる必要があります。病院から在宅へとつなげる仕組みづくりに寄与するために、地域の病病連携や病診連携への取り組みを推進したいと思います。

## —— 医師不足地域での勤務について（地域医療に対するお考え、やりがい等）教えてください。

**佐藤医師** 医師不足地域では、診療科の数や規模を縮小せざるを得ず、患者の地域外への流出を招きます。結果、地域のニーズに応えられず、病院経営面でも苦しくなります。関連大学の医局を訪問し、地元出身者や奨学金の貸与者を中心に当院への赴任を依頼しています。静岡県の奨学金制度は、当院への赴任を促進する重要な要因になっています。ただ、最低限の医師数を確保しても、過重労働と疲弊を招きますので、働き方改革としての勤務体制の見直し、タスクシェア・シフトは必須であり、現在積極的に取り組んでいます。

## —— 貴院で勤務する若手医師の活躍について教えてください。

**佐藤医師** 当院は、大学病院との連携の強化、待遇の改善などにより専攻医、初期研修医が数多く赴任されています。県内の医師不足の期間が続いた影響で中堅の医師数は少なく、これら若手の医師達が、当院の医療の中心を担っています。給与を初期研修医から常勤医と同等とし、宅直を主体として当直医の人数を減らして勤務時間の低減を目指しています。救急医療から地域包括ケアまで幅広い医療を経験できることが、初期研修医には大きな魅力となっています。また、各科の専門性も重視し、専門医取得のため十分な研修ができる体制を整えています。病院の規模がそれほど大きくないため、医師や看護師、技師など業種間の垣根が低いことも特徴の一つです。研修前の見学に来た学生さんも働きやすい良い病院という印象を持つようです。「若い医師の多い病院が活発な病院である」を念頭に置き、今後も医師の確保や待遇改善に力を入れていきます。

## —— 医師を目指す学生へメッセージをお願いします。

**佐藤医師** 医師は、どの診療科でも、基礎でも臨床でも、やりがいのある一生をかけて取り組んでいける職業だと思いますので是非頑張ってください。医師には、臨床の現場では、チーム医療のリーダーとしての役割が求められます。そのため、患者のみならず、医療スタッフとの良好な人間関係を形成することが必要です。学生のうちから、アルバイトや課外活動などを通じて、コミュニケーション能力を高めてください。また、診療に加えて基礎研究、臨床研究を行い、学会発表や留学を通じて、静岡から世界に羽ばたく医師となられるよう期待しています。



### プロフィール

## 佐藤 洋 医師

趣味

歴史探訪、ランニング

好きな言葉

生涯一捕手

昭和60年～61年	浜松医科大学附属病院 勤務(研修医)
昭和61年～62年	聖隷浜松病院循環器科 勤務(研修医)
昭和62年～平成2年	静岡市立静岡病院循環器科 勤務
平成2年～6年	浜松医科大学大学院
平成6年～8年	ロヨラ大学シカゴ校生理学教室研究員 勤務
平成8年～29年	浜松医科大学附属病院第三内科 勤務(講師、病棟医長)
平成22年～29年	浜松医科大学臨床研修センター副センター長(併任)
平成29年～30年	富士宮市立病院 副病院長
平成30年～現在	同 病院長、浜松医科大学臨床教授